

令和3年7月



としよぼちゃん

図書ボだより

戸塚第二小学校 図書ボランティア

夏休み直前号



もうすぐ夏休みですね。

何をして遊ぶのか、どこへ行くのか、計画を立ててわくわくしているでしょうか。

暑い日は、熱中症にならないように気を付けてくださいね。

今回は先生や図書ボランティアの私たち大人が、子どもの頃に読んでいま心に残っている本を紹介します。

皆さんは、何度も読んでいるお気に入りの本はありますか？

読み聞かせでお教室に行った時に、教えてくださいね。



思い出の本

戸塚第二小学校 副校長 小関俊介

私が幼稚園の時の保護者面接で、母が先生に言われたことは、「おせき君は体操の時間に絵本を読んでいて叱られました」ということでした。

その時読んでいた本の題名は今でも覚えています。「ぐりとぐら」という絵本です。

野ねずみのぐりとぐらが、森でとても大きな卵を見つけて、それを調理する物語です。

当時から私は食いしん坊でしたから、大きなフライパンにのっている黄色い目玉焼きが、たまらなく魅力的に見えたのかもしれません。

この文章を書くにあたり、学校の図書室にあったものを何十年かぶりに読み返しました。

そうしたらフライパンの上ののっていたのは目玉焼きではなく、カステラでした。

幼い頃の、母から聞いた自分の姿と、

黄色い目玉焼きが重なるこの絵本が、

私の思い出の一冊です。

『ぐりとぐら』

作：中川 季枝子 絵：大村 百合子

出版社：福音館書店



心が軽くなる本

3-1, 5-1 秋田朋美

月はひとつのはずなのに、みんなが考える月はそれぞれ違ってきます。

主人公のレノア姫が想像するお月さまは、

偉い人達が知っている月よりもずっと夢があるように感じます。

もっと自由に良いのかも、と心が軽くなる本です。

『たくさんのお月さま』

作：ジェームズ・サーバー

訳：なかがわ ちひろ

絵：ルイス・スロボドキン

出版社：徳間書店



ずっと好きな本

2-1, 4-1 内田輝幸

私が子供の頃に読んで今も好きな本の「ドン・キホーテ」と「巖窟王」、
「ガリバー旅行記」を紹介したいと思います。

もちろん子ども向けの本もハラハラドキドキしますが、大きくなって原本を読むと、
物凄く深い内実があることが分かって、全く違う世界が広がると思われますので、
何遍も読み返される事をお勧めします。



『ドン・キホーテ』

原作：ミゲル・デ・セルバンテス



『巖窟王』

原作：アレクサンドル・デュマ・ペール



『ガリバー旅行記』

原作：ジョナサン・スウィフト

保護者向け おすすめの本

4-2 大泉祐行

『亀裂』

石原慎太郎が昭和32年に発表した、
普遍的な人々の絆を描く群像劇です。

戦後復興から高度経済成長期に入った頃を
舞台として、映画女優、モラトリアム、登山家、
ボクサー、母親、社会運動標榜ゴロ、その他
多種多様な、自分自身を生き抜こうとする
渇仰の姿が収められた長編となります。



出版社：新潮社